

私の専門は地盤工学である。東日本大震災発災後、仙台市の宅地災害対策の支援活動をしている際に、単に技術的な検討ばかりでなく、地盤災害をより俯瞰的に見ることが必要であると考え、リスク、不確実性、問題解決法に関する啓発本を読みあさった。これらの本の例題が、株価変動、リーマンショックなどの事例が多いこともあり、不確実性に満ちた今後の日本の社会経済、建設業の未来なども夢想することになった。

現在の建設業界では、技術者・技能者不足が大きな問題となり、新規卒業予定者の奪い合いが起こっている。人手不足に対処するために、建設業においても、無人化、人工知能の導入などへの努力が続いている。更に、人材を確保するために、仕事環境の改善、週休二日の徹底などが真摯に試みられている。

これからの日本社会を夢想してみる。

化石エネルギーの枯渇、人口減少という制約条件のもとで、今後の日本は、膨大なエネルギー消費を伴う人工知能を駆使した高い効率性を誇る都会とエネルギー消費を極力抑えた食料生産をベースとする田舎に、顕著に分化するのではないかと思う。効率的な都会では、特に知性に優れた人だけが生き残り高い生産性を示すことだろう。低賃金の人はその賃金でも生活できる生産性の低い田舎での生活を選択するようになりそうである。しかし、ネットワークと人工

各 人 各 説

不確実性、建設業の未来、そして学生の将来

東北学院大学工学部環境建設工学科 教授

飛田善雄

Yoshio Tobita



知能を駆使し、医療・教育もある水準に達した田舎での生活を営む若者の方が感性が豊かで幸福度は高く、出生率も高いということは十分に考えられる。

建設業も必然的に二分化され、高度な科学技術・人工知能を駆使する建設会社と生産性の低い地域の維持・補修を中心とする身軽な建設会社に二分化するのではないかと想像する。どちらの会社も人々の生活に不可欠な存在である。効率性が全く異なる二つの地域、そして異なる使命をもつ建設会社に対立することなく、お互いを支えあうような安定した定常型社会に落ち着くことができればと思う。その遷移過程では、大きな痛みを伴うのは想像に難くない。

このような二分化された社会の到達が二十一世紀末なのかもっと早いのか、それとも定常型社会ではなく、カオス的な不安定な社会になるのか、まったく予測することはできない。近い将来の予測ですら、不確実性に満ちた話である。「安定していて自分にあつた会社を紹介してください」と無邪気な要求をする学生の将来は波乱に満ちたものになるのではないか。

「あなたたちの将来は不確実性に満ちた激動の社会だよ。安定した会社を求めることは無意味だよ」の一言で済ませるわけにはいかない。自分なりに、乏しい知識と知恵で、近い将来どんなことが起こりそうかだけは伝えたいと考えている。